

1. 電気けいれん療法 (Electroconvulsive Therapy: ECT)

- 頭部に約8秒通電を行い、脳を電氣的に刺激して全般性けいれん発作を誘発する治療法
- うつ病、躁病、統合失調症などの精神疾患の、特に重症度が高い状態に適応となる
- 薬物療法や心理療法に比べて確実に迅速な効果が期待できると言われている

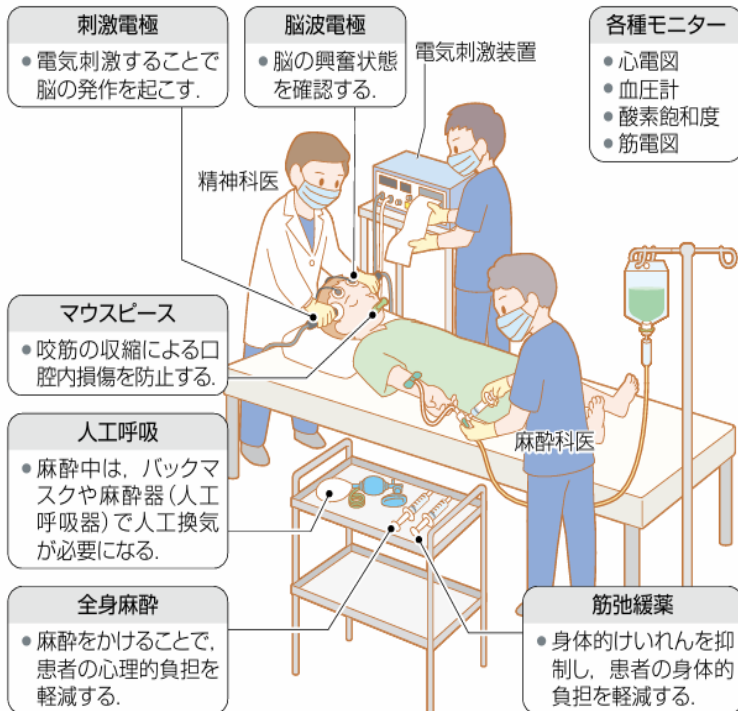
電気けいれん療法 (ECT)

ニューロモデュレーション療法
こころの健康がみえる第1版 メディックメディア社

けいれん発作を人工的に起こす

ECTの概要

- 電気けいれん療法 (ECT) は、頭部への電気刺激により脳全体の過剰興奮 (発作) を引き起こして、精神疾患の症状を改善する治療法である。
- 脳の過剰興奮はてんかん発作 (病⑦ p.456) の病態と同様であり、身体的なけいれんを伴うことからこの名称となっている。
- ただし、治療効果には身体的なけいれんは不要でむしろ外傷の原因となりうることから、通常は全身麻酔下で筋弛緩薬を投与し、身体的けいれんを抑制した状態で行う。



- 身体的けいれんを伴う古典的なECTに対して、全身麻酔・筋弛緩薬を用いたECTを修正型ECT (mECT) とよんだが、現在ではこれが主流であるため、単にECTと記載したものは通常は全身麻酔・筋弛緩薬を用いるものを指す。

2. ECTの先進的技術についての発信

◆学会テキスト、ガイドライン作成への貢献

- 日本精神神経学会におけるECT関連委員会が作成する参考図書 (ECTグッドプラクティス 安全で効果的な治療を目指して, 2020) (アメリカ精神医学会ECTタスクフォースレポート第3版, 翻訳中)
- 日本総合病院精神医学会ECT委員会の実績報告、各種ガイドライン作成 (適切な発作誘発困難時の対応に関するエキスパートコンセンサス, 2025) (麻酔科・精神科医師を対象としたECT麻酔についての意識調査, 作成中) (ECT多施設実績報告を用いた国内動向集計に関する研究, 当院主幹施設, 作成中) (ECTにおける刺激用量ストラテジー, 当院主幹施設, 作成中)

◆ECTの副作用である認知機能障害を低減する右片側性ECT

- 海外で主流となっている通電電極配置を導入し、記憶障害や苦痛を低減する試み
- 国内でいち早く治療法を導入し、学術集会などで発信、啓発を図っている

◆身体合併症を踏まえた全身管理・麻酔科連携

- 充実した検査設備を基盤に、一般精神科病院では管理困難な症例の治療にあたる
- 貴重な症例については専門誌に症例報告を行う
 - 透析患者のECT (Watanabe et al., 2023.) ,超高齢者のECT (Tada et al., 2022.)

山梨大学におけるECT

- 2021年1月-2025年12月
- 83人777セッション 66±17歳 [22-94歳]
- 急性期85コース (再発あり) 731セッション

